

日程第2．一般質問

○議長（保坂 悟君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

阿部裕和議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。〔2番 阿部裕和君登壇〕

○2番（阿部裕和君）

おはようございます。

みらい創造クラブ、阿部裕和でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、未満児保育の体制について。

(1) 未満児保育対象者のうち、未満児保育を希望される件数及び割合と受入れ状況について、ゼロ歳児、1歳児、2歳児それぞれお聞かせください。

(2) 希望する保育園に入園できない事案がありますが、そういった保育園は何か所あるのか、入園できない理由も併せてお聞かせください。

(3) 希望する保育園に入園できない事案が起こっていることについて、市としてどのように考えておられるか、見解をお聞かせください。

(4) 保育士確保へ向けた取組をお聞かせください。

(5) 保育士の業務改善へ向けた取組をお聞かせください。

(6) 保育所等の民営化の検討（あり方検討）の進捗状況をお聞かせください。

2、特別養護老人ホームの存続について。

市内には公設民営でスタートした4つの特別養護老人ホームがあり、11月13日に開催された市民厚生常任委員会、委員会協議会では各法人・施設の理事長、施設長と現状と課題について共有することができました。

その中で、施設整備の課題、職員に関する課題、経営に関する課題と、大きく分けて3つの課題を抱えていることが分かりました。

これまでも市は各施設に対して支援をしていますが、介護現場を取り巻く状況は今後さらに厳しくなる見通しであり、このままサービスを提供していくことは困難になることが予想されます。

委員会協議会の中では、法人理事長より、今後「統合」についても考える必要があると話がありました。

特別養護老人ホームはついの住みかとしての役割も果たしており、介護を必要とする方が安心して生活できる環境を提供することは、家族の負担軽減にもつながり、生活を送る上で、双方にとって大きな安心感につながるものと考えています。

運営は社会福祉法人であります。「市民の生活を守る」という点では、市も一緒になって取り組んで行く必要があると考えますが、これから市としてどんなことができると考えているか伺います。

3、書かないワンストップ窓口の推進について。

(1) 窓口業務改善に向けた取組の中で、窓口BPRアドバイザーを派遣し、改善を図られましたが、どんな内容であったか、また効果はいかがだったかお聞かせください。

(2) DX推進は推進リーダーが中心となって進めているところですが、業務フローや効率性の向上など、業務改善につながる変革はあったかお聞かせください。

(3) お悔やみコーナー（お悔やみワンストップ窓口）設置後の手続等で生じたメリット、デメリットについて、利用者側、職員側それぞれお聞かせください。

(4) 出生ワンストップ窓口設置に向けた試行実施で見えてきた課題をお聞かせください。

以上1回目の質問です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

阿部議員のご質問にお答えいたします。

1番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いたします。

2番目につきましては、喫緊の対応といたしまして、引き続き、物価高騰や介護職員の確保に向けた支援を実施してまいります。

また、中長期的な対応としては、施設の老朽化対策や要介護認定者の推移を見据えた適正な定員及び施設規模の検討、業務連携や統合等における法人間の協議に市も参画する中で、施設サービスを確保してまいりたいと考えております。

3番目の1点目と2点目につきましては、証明発行、お悔やみ、転入届の3つの手続について、窓口の現状を職員が市民目線で体験することで、書類に記入する箇所が多いことや案内表示や窓口レイアウトなど、改善が必要な点を確認いたしております。

今後は、申請書の統一や申請一覧等を作成するなど、業務改善も含めDXの推進を図ってまいります。

3点目につきましては、予約制のため待ち時間がなく、1か所で手続ができるメリットがあり、職員にとっても事前準備ができることから、さらなる利便性の向上に努めてまいります。

4番目につきましては、受付環境などの課題がありますが、実施に向けて検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

齋本教育長。〔教育長 齋本修一君登壇〕

○教育長（齋本修一君）

おはようございます。

阿部議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、6 年度の未満児保育希望者は、ゼロ歳児 73 人、1 歳児 114 人、2 歳児 141 人であり、申込みのあった全ての未満児を受け入れております。

また、学年別の入園割合は、ゼロ歳児で 57%、1 歳児で 79%、2 歳児で 83% となっております。

2 点目につきましては、6 年度、定員を超過した園は、2 園であります。

利用定員を超過して申込みがあることと保育士の確保ができないことから、第 2 希望等のほかの園の利用をお願いしております。

3 点目につきましては、待機児童を出さないためにも、他園への入園調整を行うことは、やむを得ないものと考えております。

4 点目につきましては、6 年度から始めた保育士等修学資金貸与事業により、当市で保育士として働きたい学生への支援を行っているほか、保育指導支援員による定期的な訪問等を行い、働きやすい環境づくりに努めております。

5 点目につきましては、全体で事務員を 2 人配置し、負担感のある事務の見直しや効率化などを進めております。

6 点目につきましては、私立園を運営する社会福祉法人の理事や公立園保護者会の役員との懇談会を行ったほか、民営化の先進地視察を行っており、今年度中に基本方針を策定し、公表する予定としております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2 番（阿部裕和君）

ありがとうございました。未満児保育を希望する方っていうのが多くおられることが分かりましたが、お子さんが 1 歳を迎え、親の育児休暇が終わるタイミングで希望がやっぱり多いんじゃないかなというふうに考えています。毎年この時期になると、市民の方から希望する保育園に入れないというようなご相談を受けます。その都度、担当課に相談しているんですけども、なかなか解決までには至っていないという状況であります。第 1 希望、第 2 希望の保育園に入園できないということが多々あるかと思いますが、今ほど 2 園というようなお答えがあったんですけども、どこの園なのかということと、第 1 希望、第 2 希望に入れないというのは、結構多いのかということをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

おはようございます。

お答えいたします。

待機児童といいますか、入園が第 1 希望、第 2 希望の園に入園できない例といったところでは、やはり市内では、やまのい保育園、糸魚川東保育園、こちらのほうが未満児の入園希望というのが

多い状況がございまして、今年度、昨年度で、大体20名ぐらいの方に入園調整を図って、別の園にというお願いをしたりというようなことで調整をさせていただいているといったところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

入園できないというのは仕方ないというふうに、やむを得ないというふうなお考えをお聞きしたんですけれども、本当にやむを得ないのか、実態として、青海地域、また糸魚川の駅周辺にお住まいの方から、本当に先ほど2園というお話だったんですけれども、近隣の園は全て駄目だ。能生なら、能生の地域の保育園なら受入れできるという状況で、それで、入れずにやっぱり能生まで行くというのは本当にしんどいということで、諦めて育休を延ばして、自分で子供を見たというケースもあるというふうに聞いてます。今ほど待機児童ゼロというふうにおっしゃったんですけれども、そこら辺、どうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

近年、未満児、特にゼロ歳児の入園というのが、その希望が大きく増えているという傾向がございます。先ほどもお話したような形で、入園の調整というのは、各家庭の状況を把握させていただきながら、選考基準等で優先順位をつけて調整をさせていただいております。保護者の方にご相談、お願い等をさせていただきながら進めさせていただいているというのが実態であります。こういった状況が、決していいとは思っておりませんので、市としてもなるべく改善できるような方向を考えていきたいと思っております。やはり職員配置、人材確保という点では、将来的な人材確保というようなことでの、今年度からの修学資金の貸与制度等も実施させていただいて、対応させていただいているといったところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

全員が全員希望する園に入るというのは、本当に難しいことだと思いますが、青海地域であったり、能生には園が多いというのも一つ理由なのかと思うんですけれども、市内の人が、市内というか青海地域であったり駅周辺の方が、能生まで行って、職場が、旧糸魚川市内というふうなのは、やっぱり改善していかなくちゃいけないと思うんですけれども、そこら辺はいかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

先ほど申しあげましたとおり、なるべく改善はしていきたいと思っております。今進めております、検討を進めております保育園のあり方検討等も含めて、そういったところを改善していけるように検討は進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

こういった事案というのは、もう何年も前からあったかと思うんですけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

やはり、未満児保育の入園希望が増加してきている中でこういった事案が発生してきていると思っております。何年も前からということで、特にいつからということでの統計は取っておりませんのでちょっと明確にはお答えできませんけれども、こういった状況、入園調整をお願いしているという状況は、以前からございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

先ほど検討していきたいというふうなお話あったんですけども、ぜひ検討していただきたいんですけど、何年も、多分前からあるというふうに私、聞いているんですけども、解決に向けた検討というのは、今までされたのか、それとも仕方ないというふうに受け止めていたのか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

入園申込みの状況というのは、先ほど未満児の希望というのは増えている傾向があるということでお話しはいたしましたが、その年その年によって様々であるというふうには思っております。本当

に近年、そういった入園調整の数は、ここ2年ほどでかなり増えてきているなというような状況はございますが、それ以前にも、数はそれほど多くなかったかもしれないんですけども、状況があったということで、本当に近年になりまして、そういった状況が顕著に表れてきているかなというふうな認識でおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

親としたら、本当に大変な課題だというふうに考えておりますので、ぜひとも、仕方ないというような、やむを得ないというようなことももちろんあるかと思うんですけども、親の立場になって、ぜひとも考えていただきたいというふうに思います。

こういった相談もありました。育児休暇中に仕事を探され、子供が1歳になるタイミングで正規社員として勤務をする予定であったが、子供が、希望するところに入園できず、先ほどの件ですね、会社側も積極的に担当課に掛け合ったんですけども、調整が大変難しかったというふうにお話聞いております。

現代社会において、子供を育てていく上で金銭的余裕がある家庭は少なく、夫婦共働きは当たり前、さらには夫婦ともに正社員で働かなければ生活していけないという苦しい現実が、実際にあります。また、働き手不足の課題もある中、当市においてこういった事案をなくしていかなければいけないというふうに考えますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

大きな課題だと、私どもも受け止めております。社会の変化によって、保護者の考え方が変わったり、保護者が子供たちを預けるというふうな部分のところの思いや願いが高まっているという状況等も、数値の変化から見ても明らかになっております。でき得る限りで保護者のニーズに応じた、受入れ環境整備については、やっぱり大きな方向性を持って進めていかなければならない大事な要素だと思います。1人でも2人でも第1希望、第2希望の中にしっかりと落ち着くような環境づくりはどうあるべきなのか、先ほど課長からも答弁がありましたように、あり方検討というふうな部分の中に、そこら辺りをうんと加味した形でもって検討を進めていく、その方針を今年度末までに出していきたいというふうな構えでおりますので、今ほどのご提言、あるいは保護者からの貴重なご意見、十分に酌んだ形でもって、これから作業のほうを進めてまいります。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

第1希望、第2希望に入りたいというのはもちろんそうだと思うんですけども、それは入れないで仕方ないことだとしても、やはり10キロ離れた園に朝送って行って、また戻ってきて仕事に行くというのは相当な苦勞だと思いますので、ぜひともそこを、第1希望、第2希望に入れてくれることじゃなくて、そういう子育て環境をしっかりと整備して行ってほしいというふうな思いですので、よろしくお願いします。

続きまして、公立園、公立保育園、民間保育園において、未満児保育に関わっている職員の有資格者、無資格者、それぞれの人数を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

公立園のほうで未満児保育に関わっている職員といたしましては、有資格が34人、無資格が17人となっております。民営の保育園につきましては、大変申し訳ございませんが、統計的に把握しておりませんので、お答えできません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ありがとうございました。

民間の保育園では、無資格の方に対して、子育て支援員の資格を取ってもらうという動きがあるようです。決して無資格者の仕事に問題があるというふうには申しませんが、親とすれば、ある程度、専門的な知識がある先生に預けたいと考える方が多いのではないかとこのように思います。国家資格の保育士の資格取得よりもハードルが低く、資格を取得しやすい子育て支援員の存在は、糸魚川市の保育の質を上げることでなく、親の安心感にもつながるとこのように考えます。今働いている方のスキルアップのためにも、子育て支援の有資格者を増やしていくというのは、いい取組かと考えますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

子育て支援員につきましては、保育士等の資格をお持ちでない方でも、研修を受けるだけで支援員となることができるということで、例えば学童保育とか、そういったところで従事する職員の方に研修等も受けていただいたりしているというふうに認識しております。

今、議員ご提案の趣旨、ごもっともだというふうにも思いますので、当市は、先ほどお話ししたとおり、無資格の職員もかなりの割合で勤務をしておりますので、またそういったところも検討し

てまいりたいというふうに思います。ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

よろしくお願ひいたします。

続きまして、公立の保育園、また幼稚園、民間の保育園において、職員離職の実態について調べたことはありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

特段調べたということではございません。民間の離職状況というのは、特に把握はしておりません。公立の職員に関しましては、直近の状況で申し上げますと、令和5年度に2人、4年度に1人、3年度に4人ということで退職をしているといったような状況がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

公立のほうはもちろん把握してると思うんですけど、先ほど、今までの答弁をお聞きしますと民間のほうは、ちょっと分からないというような答弁が多いんですけど、糸魚川市の子供、これからを担う子供たちというところでは、やっぱり情報共有していったほうがいいんじゃないかというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

民間の保育園の皆さんとは、定期的に園長会議等でも懇談をさせていただく機会がございますので、情報として教えていただけるかどうかといったところも含めて、今後ちょっとご相談させていただければというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

民間の園では、そこで育った子供たちが小学生や中学生になっても、懐かしんで、保育士や園を訪ねるといようなお話もお聞きします。このような環境こそが、子供たちの精神的な成長を助け、当市が掲げる0から18歳までの一貫教育というのにふさわしい一面であるというふうに考えますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

やはり民間の保育園ですと、一度そちらのほうで就職しますと、ずっとそちらの園にいるという形、ただ、公立保育園のほうは定期的な人事異動もあって、今、議員おっしゃるような形での、お子さんが大きくなってから、また戻ってきても、園にその保育士がいるかどうかというところはちょっと定かでない部分というのもあるのが実態だというふうに思っております。公立園での人事異動をどうするかというところの課題もございます。

ただ、議員おっしゃるような形で、子供たちの心を豊かに育んでいくという点では、そういった部分の視点も必要だというふうに思っておりますので、今後ちょっと留意していきたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

お願いいたします。

（4）保育士確保に向けた取組について、保育士の確保も課題ですが、今現場で働いている保育士、特に若手の職員に対して離職を解消していかなければならないというふうに考えております。離職についても課題であると捉えてはおられるかと思いますが、もう一歩も二歩も踏み込んで、抜本的な改善が必要と考えますが、これからどのような対応・展開というのを考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

離職についての対応といったところでは、今現在も保育指導支援員を園のほうで巡回というように形で回っていただいております、週に2園程度、回っていただいているんですが、そちらのほうで現場の状況をつぶさに見ながら、保育士の支援等もしていただいております。そういったところも含めて、今後ちょっとまた、なるべく働きやすい職場になるような、事務改善といったところも1つに上げられるかと思っておりますが、そういったところもできることから進めていきたい

なというふうには思っているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

保育士の成り手不足というのは、看護師であったり介護士というと、同レベルで深刻な状況であるというふうに考えております。今年度より、保育士等修学資金貸与事業というのが開始され、今までよりも保育士確保に向けて取り組んでいるというところであるんですけども、介護士や看護師に比べて、やはり保育士への人材確保メニューというのが少ないというふうに思います。

先日、昨日か、東野議員の中にもありましたけどUIターンの対象者を見ても、看護師、介護士というところが優遇されている状況でした。支援メニューを増やしたところで、人材確保に直接つながるという保証はないんですけども、枠を広げて、看護・介護と同等の支援を展開していくということが必要なんではないかと私は考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、介護とかの職員に比べて保育士の部分のメニューは少ないなというふうには認識しております。今年度から、保育士の修学資金の貸与事業を始めさせていただきましたが、これまでに4名の方から申請をいただいております。また、今後もほかのメニュー、例えば県内の他市では、保育士の資格試験の受験料支援なんかも始めたというような例も聞いておりますので、そういったところも参考にしながら、支援メニューについての検討は進めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひとも支援メニューを増やして、増やしたところだというのも思うんですけども、やっぱり幼少のときから保育士に触れたり、保育士の仕事に触れたり、介護もそうですけど、やっぱり小っちゃいときに触れる、そこが、今糸魚川市は中学3年生にキャリアフェスティバルをやっておられるんで、そういうのをしっかり展開していただければというふうに思います。

また、当市でも介護事業所に対しては、実態把握のために年に1回アンケート調査というのを事業所に対して行っているんですけども、保育所では、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

保育所の関係については、特にアンケート調査といった形では行っておりません。

ただ、先ほどもちょっとお話し申し上げましたが、月に1回、私立の園長会議等がございまして、そちらのほうにも同席させていただいたりということで情報交換は行っておりますので、また、アンケート、ご提案のアンケートといったところも、また相手方にもお話しする中で、必要かどうかということも検討してまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

今後のあり方検討とかも進んでいく中で、実態として、しっかり記録に残るようなものも必要じゃないかなというふうに思いますんで、ぜひとも民間の保育園の人たちとも協議を進めていっていただきたいというふうに思います。

次に、（5）業務改善についてであります。

今ほど事務作業というところありましたけど、保育園のICT化というのも一つ重要なことじゃないかなというふうに考えます。

糸魚川市でのICT化というのは、どの程度進んでいるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

園の職員に対して、業務改善ですとか、負担感等のアンケート調査を実施いたしまして、そういったものをまとめる中で、改善可能と思われるような項目を選定して、例えば今、保護者アンケートの電子化ですとか、記録簿等をデータ化するなど、少しずつ、できるところから取り組んではいるんですけども、なかなか進んでいってないというのが実態だというふうにも思っております。

ICT化は、非常に効率化が進められるとは思っておるんですけども、現場の保育士の負担軽減、実際、利用する側の職員の、また理解、対応といったところも必要になってくると思っておりますので、現場のほうともしっかりと話をしながら、できるところから進めていきたいというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

今ほど室橋課長からあったとおりでと思います。現場では、なれ親しんだ方法を、やり方というのを変えるというのに抵抗がある方も多々あるというふうに思いますし、そういうふうに聞いておりますが、今後を見据えたときに、やっぱりICT化というのを進めて、1回覚えれば、本当に効率が上がっていくことだと思いますので、ぜひともそういったメリットをしっかりと現場に対して打ち出していくことで理解を得ていただいて、本当に現場と話し合いながらになると思うんですけども、着実に進めていっていただきたいというふうに思います。

次に、あり方検討についてお聞きします。

保育園の民営化、適正配置についての進捗状況というのを詳しくお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

5年度からあり方検討ということで進めさせていただいておりますけれども、令和5年度に研修会のほうを開催いたしまして、今年度6年度は、私立園の理事の皆さんですとか、また、公立保育園の保護者会の役員の方と懇談、あるいは意見交換というふうな形で行わせていただいております。また、民営化の先進地視察等も、こども課の職員が行って、研修をしてきているといった状況もございます。

今日のご質問の中にもあるように、少子化が進む一方で、未満児保育というところも非常にちょっと増えてきているといったような状況で、様々なそういった保育ニーズというのがあるというふうに思っておりますので、そういった中で、子供たちの発達段階に応じた質の高い教育・保育の提供と、また持続可能な園運営といったところを視点に持ちながら、園のあり方検討というのを考えているところでございます。

先ほど教育長からお話あったとおり、今年度中にその方針を定めたいということで、また、今会期中の総務文教常任委員会のほうに、方針案のほうをお示ししたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

今まで上げた課題、特に預けたい園に預けられないというような親のニーズに对应されていないという現状を課題として捉えて、ぜひともそのあり方検討であったり、適正配置の中にしっかり組み込んで議論を進めていっていただきたいと思うんですけども、そこら辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

適正配置という部分での具体的な議論ということになりますと、あり方検討の方針がしっかりと定まってから、その後、具体的なお話というふうになっていくんじゃないかというふうに思っております。持続可能な園運営という点で、今後もちよっとしっかりとそういった適正配置といったところも含めて、在り方を考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

適正配置の話につながる事なんですけれども、保育園だけでなく、教育全般に関わることで、ちょっと教育長に答弁いただければと思うんですけれども、子供の成長を第一に考えたとき、社会性や協調性、コミュニケーション能力を養っていくためには、ある程度の人数がいる集団生活の中で、育て成長していくということが私は重要なんじゃないかというふうに考えますが、市としてのビジョンが、まず1個、今までのいろんな方の一般質問の中で地域と話し合いながら、地域のもちろん考えも重要などころだとは思いますが、ぜひ糸魚川市としてはどう考えているのかということをお答えいただければ。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

轟本教育長。〔教育長 轟本修一君登壇〕

○教育長（轟本修一君）

お答えいたします。

日々成長する子供たちにとって、どういう育ちや学びの環境が大事なのか。今ほど阿部議員さんが指摘されたように、ある程度の集団、その中で培われる社会性、コミュニケーション能力、いろんな人がいるんだ、いろんな仲間がいるんだということも学べるのも、ある程度の集団が必要です。そこら辺りのところの環境についての整備は、大変大事な考え方の一つです。

ただ、じゃ少数だから駄目なのかということでもない部分も、私は可能性としては十分にあり得るというふうに考えてます。じゃあ、小集団になった場合はどのようにカバーしていくかと考えたときに、やっぱり交流とか連携とか、やっぱり協働の場面をどうやってつくっていくかという考え方も一つの方向性としては、課題解決の一つにはなり得るというふうに考えています。

糸魚川市の場合については、距離的な面とか、やっぱり立地条件とか、地域が歩んできた内容とか、やっぱり総合的に考えなければいけないというふうに考えてます。そうなってきたときに、地域づくり、地域コミュニティをどういうふうにつくっていくかという中に、子供を真ん中に据えていく。子供の育ちや学びの環境をどうやってつくっていくかという中に、地域が一体とならなければ、すばらしい環境にならないと私は考えてます。ですから、慎重に進めるということは大事な事なんですけれども、やはりある程度の人数というふうなことについては、大きな要素だと私自身は考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

お考え、受け止めました。ありがとうございます。

次に、令和8年度から本格的に実施される予定のこども誰でも通園制度が始まれば、両親が働いている世帯でなくても、誰もが保育施設を利用できるようになります。ですが、新たに受け入れる子供の増加、慣れない環境で泣いてしまい、その対応に追われるなど、保育現場では、保育士への負担がさらに増すことが容易に想像できます。保育を希望する家庭が増えたとしても、保育士がいなければ預けられません。人員配置、適正配置の検討をし、子供を安全に受け入れる体制を整えなければなりません。現時点ではどのような議論が進んでいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こども誰でも通園制度につきましては、議員おっしゃるとおり、令和8年度から全国的に実施ということで、県内でも既に幾つかの市では試行実施というようなことでお聞きしております。

ただ、利用時間が、園児1人当たり月10時間を想定というようなことで、なかなかやっぱりの利用が進んでいくかどうかというところは、県内で既に試行実施しているところの状況を見ても、あまり利用がないといったようなお話も聞いております。現在対応している一時保育で対応できる部分も多くあるのではないかと考えておりますが、令和8年度から実施するという方向では、市のほうも検討を進めているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

令和8年度から始めるときに、出生がどのぐらいかというのも予測立てて、どのぐらいの、始まってみないと分からないところですけど、例えばゼロ歳児が57名でしたっけね。五十何名という中で、それほど出生に変化ないかと思うんですけど、何人ぐらい受け入れられる体制で整えていこうというふうに考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今現状では、先ほどお話をしましたとおり、それほど多くの方が利用されるという想定では考えておりません。実施する園につきましても、市内全ての園で実施するというのではなくて、幾つ

かの園で実施するというようなことで検討しておりますので、実際の運用が始まった状況の中で、また検討はしていかなければならないとは思っておりますが、今現時点では、それほど多くの利用はないのではないかとこのように考えているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

子供を預けたいという親が実際に現れたときに、希望する園、全部の園でやるわけではないというふうにおっしゃったんですけど、それこそ希望がないような園でやって、実際に運営を始めて、希望者がいなかったというようなことがないように、ぜひともお願いしたいというふうに思います。

子供の成長において、先生や保育士、それぞれが持つ個性豊かな感性を表現できる環境をつくり、園全体で子供たちの成長を見守り、保育士の団結力、同心協力の思いを高めることが大切であるというふうに私は考えます。公立の園では、数年で異動があり、民間の園では、そこで長く勤められる環境であります。こういったところで、公立と民間との間で、少なからず影響が出ているというふうに思います。0から18歳までの一貫教育の中で、スタートである保育園が最も大事な時期だというふうに捉えています。子供たちが伸び伸びと成長でき、親も安心して預けられる環境の確保のために、引き続きご尽力いただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

続きまして、2番、特別養護老人ホームのほうに移ります。

施設整備の課題では、施設整備から40年以上が経過し、それに伴い、老朽化・経年劣化が進んでいる施設もあり、各施設においては、今後、修繕や更新が必要な施設もあり、修繕費の捻出に苦慮されているところであります。協議会の中では、今後、統合も視野に入れていくというふうな考えの発言がありました。これから法人間で協議が進むことだと思いますけれども、今後、市として具体的にどのように関わっていくか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

おはようございます。

お答えいたします。

今ほどの今後の市の関わりということでございますが、まず、短期的な対応としまして、国・県への要望活動が、まず必要、継続して必要というふうに考えております。こちら国・県の大規模修繕に対する補助メニューなんですけど、要件というものが高いハードルがございまして、こちらの要件の緩和を継続して要望をしていきまして、修繕費の負担が軽減されるように働きかけていきたいというふうに考えております。これが短期的対応ということで、中長期的な対応として考えますと、こちら今ほどお話がありました、特に法人の統合や業務の連携ということでございますが、そちらに関しましては、先日の委員会の協議会におきましても、法人側のほうから、まずは法人間で方向性を定めた上で市に相談したいというお話もございましたことから、まずはこのような相談を受け、

そして、話し合いの場が設けられたときには、こちらのほうは市のほうも参加させていただきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

補助メニューの枠を広げるというか、それは、市単独で要望されているんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

市の単独ということではございませんで、いろんな団体を通したり、後は市長会等を通しまして、組織として要望活動をしているということも現在も行っておりますし、今後も継続していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ありがとうございます。

職員に関する課題であります。職員の年齢構成がだんだん上がってきて、人材確保についても、応募しても、ほとんど募集が来ない。で、今後さらに職員の高齢化というのが進み、人材不足というのが深刻化していくことが予想されます。現在も確保に向けていろいろな施策を展開されていますが、評価・見直し、今後の展開について、お考え、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

人材確保の厳しさというところは、今、議員ご指摘のとおりでございます。実際、一例としまして、修学資金の貸与事業の利用者につきましても、昨日の市長答弁、東野議員さんの答弁でもございましたけれども、利用者がここ2年ほどないという厳しい状況もございます。この制度だけということではございませんけれども、この制度の見直し、改めというところ、利用効果がない事業については、思い切って廃止して、新たな制度を考えるというところも視野におきまして、随時、見直しをしてまいりたいと思っておりますし、また、県のほうでもいろいろなメニューを設けておりまして、そういった県の施策というところも一緒に連携、整合性を図りながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

よろしく申し上げます。

人材確保で、先般、上越市の社会福祉協議会とベトナムの日本語学校との間で、協力体制の取決めを締結され、令和8年から5年間にわたり、同校の生徒を毎年5人ずつ採用するという報道がありました。

先日の協議会の中でも、事業所側から外国人の採用についても話がありましたが、本市として何か動きはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

本市としまして、新たな動きということをごさいますませんが、現在、介護事業所の人員アンケートというところを確認させていただきますと、正職員、パートを併せまして、令和6年度は、外国人の方の数は15人というふうになっております。こちらは前年度、令和5年度と比べまして、5年度が6人ということですので、2倍以上の増というふうになっております。

先日の協議会の中でも、こちらの外国人の方の雇用というところの話題もあったところなんですけれども、こちら結婚されて、もともと市内にお住まいの外国人の方も含まれているということでございまして、今ほど上越市の例でございました、技能実習制度を利用して、海外から来ている人材というところは、まだ少ない状況というふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

そういった状況の中で、今後どういう取組をお考えか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

この技能実習制度の受入れというところになるかと思っておりますけれども、事業所側にノウハウがまだないということも大きな課題というふうに捉えております。現在、県が実施しているセミナーだとか、市のほうでも実施している、こちらは介護人材だけにもかかわらずということなんです、

外国人雇用支援アドバイザーによる相談窓口ということも設置されておりますので、こういったところを事業者様のほうにも、引き続き周知をしてみたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

事業所と一緒に取り組んでいていただきたいというふうに思います。

市がやってる事業について、ちょっと細かいところなんですけど、未来をつくるk a i g o人材育成事業、この事業の目的と今まで行ってきた事業内容とその成果について、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

まず、目的というところですが、職場環境の改善と意識啓発リーダーの育成により、介護人材の定着を図るところを目的としております。

内容と効果というところになりますけれども、この事業の内容としては2つございまして、1つ目は、介護カフェ事業というところで、ワークショップの開催によりまして、それぞれ各異なる事業所の介護職員が、悩み、課題等を共有しまして解決方法を図るというワークショップを開催しまして、モチベーションの向上だとか職場環境の改善を図るところを狙っている。そういった内容になっております。

もう一つにつきましては、市内の中学校における出前講座の事業がございます。こちらのほうは、このワークショップに参加いただいた事業者の職員様も協力いただいております。こちらのほうは、生徒の皆さんに介護の仕事の内容とか魅力、イメージアップというところで、いろいろお伝えをさせていただいております。

この事業の成果としましては、事業後のアンケートを見ましても、多くの生徒の皆さんから、介護のイメージが変わったとか、あと、アンケートでは興味ありというところを聞いているんですけども、こちら回答も、事業前後で4倍ほど興味が上がったと、興味ありという答えた方が4倍ほど増えているというようなアンケート結果もございます。

このような形で成果が得られているというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

中学生のほうに対しては、5年後、10年後に結果がだんだん出てくることかと思っておりますので、根気強く継続していただきたいというふうに思います。

また、今ほどありました介護カフェのほうについて、お聞きします。

よりよい環境にするために、必要なこと、様々な気づきを共有したというふうに広報で紹介されていました。広報いといがわで紹介されていましたが、その中では、現場が抱える課題というの意見が出たと思います。こういった会は、日頃の疲れを慰め合う会で止めるのではなく、そこで出た貴重な意見を受け止め、改善できるように市としてサポートしていける会になればいいなというふうに思っているんですけども、ここで出た意見はどう扱って、今後、現場に対してどう反映していくものになるのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

先ほど申しあげましたように、まずはリーダー育成というところを大きな狙いとしておりますので、まずは、こちら参加された方々に各職場に戻っていただきまして、リーダーとしての役割を果たしていただくというところを期待しているところでございます。

具体的などころで申し上げますと、まずは、この現場で職場同士の話合いの場を、今度は現場で設けていただくということによって、現場の環境の改善、職員の定着につなげていくというところに期待をして、そのようにお願いをしているところであります。

また、現場ではそのように行っていただきまして、市のほうの関わりというところでお伝えさせていただきますと、カフェの話合いの場の意見の中でも、市の施策として対応が必要なものというのも見えてきている部分もありますので、こちらのほう、取りまとめをさせていただきますと、臨機応変に指導できることということで対応させていただきますと、これもまた、介護人材の確保というところにつながっていければというふうに、この事業の見直しというところにもつなげていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

分かりました。よろしく申し上げます。

経営面の課題について、今年度、介護報酬の改定がありましたが、職員の処遇改善や最低賃金の上昇、光熱費をはじめとした昨今の物価高騰に見合ったものにはなっていないというふうに考えます。また、各施設事業収入の65%から75%、また、ある施設では80%が人件費として支出されております。介護事業者の給与は決して高いものではないことから、介護を取り巻く環境は大変厳しく、今後も課題を多く抱えることになると思います。事業所の収入は、主に介護報酬から成り立っており、この報酬は、国の介護保険制度によって決められているため、事業所ではどうすることもできません。市として、今も要望しているところだと思うんですけども、再度、強く要望させていただきたいというふうに思いますが、市としてどういうふうに、今後、展開していかれますか

しょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

あと重ねてということになりますが、支援だけでなく事業団体と共に要望活動を、声を上げていくということが重要であるというふうに考えております。介護報酬の在り方についてもそうですし、今回また、物価高騰を含む急激な社会情勢の変化というところでも、国のほうでもいろいろメニューを出してくるであろうというふうに想像をしているところです。そういったタイミングに合わせて要望活動というところも継続してまいりたいと思っております。

また、中長期的というふうに考えていきますと、今回の委員会協議ということも、一つ大きなきっかけになっているというふうに私ども捉えております。まず、市内の特別養護老人ホームの皆様方、各法人の皆様方、大きい法人さんの、この3つの法人が、市内の重要な介護の役割を担っているというふうに受け止めておりますので、こちらの話合いの場というのを継続していただきまして、市のほうもその話合いに参画していきたいというふうに思っておりますし、今回の委員会協議会のほうでは3法人というところでございましたけれども、次のステップとしましては、ほかの事業者さんのほうにも参画をしていくということで、広い取組につなげていければというふうな形で、市全体を挙げて、この課題については連携・協議を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

介護報酬、3年に1回というところで、本当に間に合っていないとか、しかも今回、訪問介護をはじめ、何ていうんですかね、対応が悪くなったというの、受け取れる金額も下がったというのがありますんで、本当にこの後2年間で相当疲弊がたまって、倒れてしまうというようなことも市内でも考えられますんで、ぜひとも市長、先頭に立って、お願いしていただきたいというふうに思います。

今ほど山岸所長のほうからありましたけれども、民間のほうとも一緒になってということなんですけど、場合によっては医療関係の人とも一緒になって、糸魚川市にとって適切な介護サービスの在り方について、また、計画的な統廃合であったり、補完についても、一步踏み込んだ話が必要なんじゃないかなというふうに思うんですけれども、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

公設で設立された法人ということでもありますけれども、基本的には法人の皆様の考え方が優先されるものというふうに思っています。

ただ一方で、施設の老朽化ですとか利用者の減、それから職員がそれぞれ不足しているような状況の中で、やはり全体を通して、どういった福祉サービスの在り方が正しいかというのをやっぱり見極めていく必要があるなというふうに思っています。

そういった中で、医療というふうに今提案もございましたけれども、福祉医療、どういった形で提供していくか、将来にわたって維持できるか、そういった話合いのほうに市も参画していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

介護施設というのはお年寄りだけが対象じゃなくて、その方々の家族というのも本当に密接に関わっていることだと思いますんで、ぜひとも市もそれを担っていると思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

3番目、書かないワンストップ窓口についてお聞きします。

業務効率向上のため、行政事務、または窓口業務のデジタル化を進めるに当たって、市民も恩恵を受ける取組が、書かない窓口であったり、その次の段階である、書かないワンストップ窓口だというふうに考えております。自治体システムの標準化も控えておりますが、現時点での進捗状況と書かない窓口の運用開始時期の目標をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

お答えいたします。

進捗状況につきましては、本年度2回、先進地視察を行いまして、導入に向けての課題の調査を実施いたしました。また、窓口BPRアドバイザー派遣事業の中で、窓口体験調査を実施いたしまして、市民目線での課題を理解はできました。

なお、書かない窓口の運用開始時期でございますが、令和7年度はシステムの全国標準化がございますので、導入につきましては、それ以降になるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

体験調査なんですけど、どういった内容だったかお聞かせください。どういった内容が課題として上がったのか、いい点、メリットというか、糸魚川市の窓口はここがよかった。ここを変えなきゃいけないというようなものが出てきたかと思うんですけど、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

今回、窓口体験調査の中で、6人家族の転入の手続を行いました。市民課をはじめ、複数の部署を回りまして、記入した申請書等は全部で20枚、その中で氏名が47回、住所が21回、生年月日が33回と、本当に多くの回数、同じものを記入いたしました。そういった点を改善することが一番大きな課題だと思っております。

あと、BPRアドバイザーのほうからご意見頂戴したんですが、他市と比べて当市の職員の対応が非常に迅速であるということで、そういった部分で評価を頂戴しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

転入の手続で、相当な数の書類を書いたということなんですけど、昨年だったかな、昨年、北見市に会派で視察に行ってきました。まさに4人家族の転入を実際に私、受けたんですけども、10分ほどで手続が終わりました。しかも書いたのは、名前、2枚の書類かな、最後。本当に職員の人負担が減ったというようなお話を受けて、双方にとってメリットがある取組だなというふうに思いました。本当に書かない窓口、ぜひとも進めていただきたいと思うんですけども、市役所で幾つもあると思うんですけども、どの手続から書かない窓口をスタートしていきたいというふうに考えているか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

まずは証明発行、転入・転出、お悔やみ、出生の手続から進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

令和7年度末の自治体システム標準化があるので、それ終わってからということなんですけれども、ぜひともよろしく願いいたします。

お悔やみコーナーに関してお聞きいたします。

利用するために必要な手続というのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

お悔やみコーナーの利用につきましては、死亡届出の際にお渡しします書類の二次元コードをご利用いただき、ウェブで予約をいただくか、また、電話等でご予約をいただく形になります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

今ほど最初の市長答弁のほうでメリット・デメリットをお聞きしたんですけど、メリットはあったけどデメリットはなかったというような捉え方をしております。職員のほうも準備を事前にできるということで、本当に双方にとっていい取組だったんだなというふうに感じております。

また、そこで出た意見というのもぜひ反映して、よりよい窓口にしていただきたいというふうに思います。

出生ワンストップのほうについて、お聞きします。

実施に向けて取り組んでいきたいということだったんですけども、今後どのような取組をされるのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

将来的には、窓口支援システム導入に向けまして、こども課と連携して取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

出生ワンストップ、市民課とこども課、2つの課にまたがるものだと思うんですけども、市民課としての課題であったり、こども課としての課題というのがあると思うんですけども、試行実施で見たものをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

出生関係、こども課関係の手続につきましては、やはりお子さんと同行してお見えになる家族が多いということで、1階フロアにお子さんが安心して一時お過ごしいただくような、そういったスペースの確保が必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

試行的に、窓口の一本化というような形でこども課の2階のほうでやったり、1階の市民課のほうでやったりということを実施した中で、今ほど市民課長のほうからお話あったとおり、こども課の窓口といたしましては、やはりこども家庭センターの設置の中で、子供が遊ぶ場所といますか、受付の間に過ごす場所というのは設置が求められております。そういったところをどうしていくかというところが、一つ課題になってくるかなというふうに思っておりますし、あと受付関係の機械の体系的な配置、そういったところも課題として上がっているというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

基本的には、私は1階で手続、済めばいいなというふうに思ってるんですけども、現実的に今課題として、子供が遊べる場が必要だという、過ごせる場が必要だといったときに、そこを課題として捉えたときに、実際に1階にその場所を設置できるかどうかというのは、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺 忍君登壇〕

○市民部長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

環境的な整備の問題もございます。今1階で実際、どこの場所が、そのような場所ができるかというの、併せて今検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

お悔やみコーナーや手続のところを、お悔やみコーナー専用として使っているわけではなく、出生ワンストップとしても使用できると思いますし、今後、書かない窓口が進んでいく中で、記載台というものの撤去のことも考えられると思いますので、ぜひとも前向きにご検討いただければと思います。本当に市民に寄り添った窓口になることを願っております。

私の一般質問を終わります。

○議長（保坂 悟君）

以上で、阿部議員の質問が終わりました。

11時20分まで休憩いたします。

〈午前11時13分 休憩〉

〈午前11時20分 開議〉